

~~For the Defense~~ Doc. 6251

原文頁一

文書印字二五一年 紛糾國側用  
語言

○文書曰：檢察側文書印字二五一年中、尚他、却今  
拔革，王欲二千一千被告側辯護人要求之。答  
一九三六年十一月十五日附裁判所命令（文書印字五六九  
號）依、辯護國側文書上手複事各セラシタスア。

○文書曰、或却今八院=檢察側、依、正據上手是  
出セラバ法廷記印字二五一ノ件上手番號が手居心。

原文頁二

國務省會議錄印字四號  
一九三五年倫敦軍縮會議  
亞米利加合邦國代表委員會報告書  
一九三六年、倫敦海軍條約、備文及其他、文書

印

在印件上合眾國政府印刷所

一九三六年一

原文頁三

一九三六年一月十五日第一季員會印字會議  
議事要旨

出席者

海軍大臣 G.B. E. セラル MONSELL / 子爵

(議長)

\* \* \* \* \*

No. 1

Defence Doc. 6251

軍艦領教共通最大限度=討入日本側提案  
(討議實行)  
議長。皆サシ前回「本委員會合會議」於今日本  
國代表ハ總領教限度問題討議外、  
「限」海軍情報交換=肉心事件、討議二  
入「二十出来十」上言明セラシタリ。其後蒙  
帝國代表ト非公會談=於今日本國代表  
ハ成ベク速ニ共通最大限度=討入日本側  
提案、討議ヲ始メテイコト又コト問題ニ向ニ各  
國代表諸君、明確ナニ言ひ思フ事リノトナリ  
コトヲ言ハシマシ。ヨリ云兩國代表者向ニ是等  
之會議=於今日本側、要亦三盤之委員  
會ハ其最初、仕事上シテ共通最大限度  
討入日本側、提案等討議ヲ始メ用意シカ  
ルヤ否ヤ他、國々代表諸君ニ諮詢コトニ決定  
致シマシ。

11. 2

Defense Doc. 6251

ニ提案、五回、御打合セラ行ヒ既ニ御考慮ニシタコトアリテ  
然レ日本奉員会、日本國代表が其提案木支持タヌニ引續キテ  
ナセヒ思、論議ヲ傾聽シ又同代表が提案ニナト思、頗爾  
限被、代表ガアカドウカラ喜シテ知りテ了解ト松考ス。  
一方他國代表方ニ於カセラシテモ必ナ日本代表、提案ニ對  
シテ十分ニシテ且明確ナル御意見、御發表シテ御用意ガ  
アリト、寒ビス。己サヘ済セラシナフ、日本代表、本會議  
目下他重要諸事件、討議、繼續スルコト同意セラヒ様  
私、希望致シテ。然レ日本國代表提案、討議、企  
先立ト私、私が只今本詔、致シテ、提議ニ御出席、  
皆律方ガ済ナリ御同意リ云コトヲ判然承テ才キ  
リ存じタス。

反対モガサセカウ、日本國代表ニ御提案、御説明  
才願ヒ致シテ。

永野海軍大將(翻譯)私先、日本側提案審議  
總會、本日、機會、才與下サシト深く感謝  
致シテモガアリコト申上テ存じタス。

ソシテ時局節約、タメオ許シ得テ日本代表、説明、

翻譯大、朗誦シテ世景上リ存じタス。

説明、次、通テアリ。

110. 3

4  
No.

Doc. 6251

一私、本委員會從來會議於此、我が提案自  
明力有且其趣意ヲ示スルタメ、隨分長  
又詳細直テ説明致シマシタが、他、代表諸君  
心中ヨリ疑惑惑ト一掃スル程度私、仕事  
ニ成功スルニ至ナカツト事ニ思ひマス。  
ノコテ本日ハ先致ニシテ説明ヲ補足スルコ  
ト依リテ我々、計畫ア一層詳シ、或  
代表諸君が之ニ關し今迄オ述べ下サツタ  
ブ意見ニ就テ我々、考ヘマスルトコロヲ申  
上アルコトニテクイト存じマス。  
若ニ私、是カラ申ニマスト、ウチニ私ガ既  
ニ申ニシタコト、重複スルヤウニ諸君ニ思  
ハレル箇所ガザイシタナラバ、日本、計畫  
ヲ出来ルケ判然タル状態ニ諸君ニ御示  
ニスルシメハ多少、重複ハ避ケ得ナリト  
上、考ヘマス、テコトニ當即辛抱ヲ才體  
致ニ度ト思マス。

又、他、國々、高キ目的、十分、故  
意ヲ表シハ致シマガ、世界平和ヲ希  
ニスルコトノ實事ト執意ト、其ニ於  
ハテハ他、何シ、其家ニモ後シテ取ルモノテ  
ナリコトヲ茲ニ申上クイト存じマス。

Defence Doc. 6251

總てノ國家、相互ノ理解、上ニ國際向ニ親善ト好意ヲ増進スベキニト、又總テノ國民ハ夫々、國家、安全ニ就キ何等ノ危惧スルコトナク各國民間ニ平和トイフ天惠ガ得ラシタ結果トニテ招致ケル幸福ト満足ノ裡ニ各國民ガ夫々其ノ使命達成ニ邁進スルコトヲ得ヤシルヤウニスルト云フカ我ノ國際政策指導精神、下リテス。

余文五頁

ソレ故ニ軍備縮少ト就キ相互了解ニ達ル不可能性、ナル方策ヲ種々考慮シタ結果本我ハ、關係各國間ニ戰争、脅威ヲ取除キ又安全、平等ヲ確保乞コトヲ第一目的ト致シタノテアリ也。勿論採用ヤラルベ十軍備縮少案ハ、國家同ノ差別の取扱フ正当化スルヤウナ<sup>即ち</sup>ノタ考ヘテ生ズルコトナイモードアリシハナリマセニ、ソシテ私連ハ其ノ上ニ実行的ノ案アリム事ヲ保證本來ルヤウニ特ニ留意シ致シマシタ。

私が只今申上ゲマシタニツノ莫ニ就テ十分考慮ニ擇ヒ且綿密ニ構想ヲ練シタ結果我ノノ案ノ計画致シタノデ私ハ、日本ノ提案ハ公平デアリ、公正デアリ、且実行的デアレト同時ニ極メテ彈力性ニ富シシモノアルト信じテス。ソレ故ニ若シ代表諸君が我ノ提案ヲ詳細ニ且リ同情、念ニ以テ情審直下サルアラバ、ソニニ案ノ中ニ、軍備縮少ニ就

No. 5

Defense Doc. 6251

新工協定ニ至、心多々無理、ナキ基礎  
余見入ニ重太化困難ニ遭遇セラシトハナリ存  
ジス。

然ル、今日本、提案案自取締的、審査二ヶ月上  
手居故、私敢テ以下、希望ヲ述べタムと思  
フ。即ち代表諸君ハ、現存、予定久圖云、  
了情、拘泥入ルト久堅干渋意ヲ以テ、新  
ル且日取締、成案不得ルノ、仕事ニ当面  
其目的、タムニ日本、提案ヲ下ラシム角度  
ヲ而其精神及目的同情し心理解ヲ以テ  
研究討議セラシト希望致ス。

二、若之例シカ、國家が、タム世界、各所、同  
類、起セラシハ、要ラ豫想シテ、大海军力、  
要求ヲ持出スルべ、斯心要求ハ結果於テ二箇  
國或、數箇國ヲ相手、入ルニ足る海軍力、要求  
求ニ匹敵スルニカモ知セラ。斯心要求ハ如何  
九場合モ、一國對一國、關係ノ基礎ニ考  
慮サルベキ軍備縮少問題ニ於テ了解ニ達  
スル機会ヲ邪魔スルニ至ルトモ知ナリ、ナリス。

10.6

Defense Doc. 6251

No. 17

然シニイ國國が坐了國の均等、立場の反覆互に安全の保障入  
る上海軍事統制條約取締大將軍、軍艦隊用已此會  
基本的方針、軍備、均等上有所トアリ也。實際上半  
之半公的下以方濟也。不外上參謀考へ也。シテ是ハ  
海洋ヨリテ隔て少く且以相互國防、大主、海軍ノ三條  
シテ居比二國間、特許然ニテハ、更ニ高文、海軍  
軍備機動性、上海戰、特異性考慮スルキ。全列強、  
阿爾示力、均衡、必要、海軍勢力、均等、艦隊、軍備  
ノ成文艦種、均等ヲ要請ナリ。不外、故ニ本提議ハ  
甲級巡洋艦以上、全大型艦種、於テ各艦種母、  
均等ヲ條件トスル也。併シ、用途が專ラ防衛的、  
ノ小艦種ニ關シ、各國、特權、事情、適應、此様、適  
宜、調節ヲ施シ、然ニベキ、不外也。故ニ日本、提議條件  
ハ乙級巡洋艦及是以下、全小型艦種ニ關シハ、其の  
制限、實地又ベシトスル也。惟其、容易、機動、速  
度、小、海軍力、特異性、不外、連艦技術、改良、  
八言ノ候多々口下也。更ニ對于海、海域、敵空、之處  
其為、技術的理窟、必要、系ニ隨時單一水域、集結、  
出港、上、下、上、海軍作戰、根柢原理、不外。又、可能  
十上、不外、而シテ更ニ或國が他、國对于、致命的脅威  
威得心裁、其力、特定水域、集結、得上、不外、例ハ、  
海軍、之、緣多、例ハ、敵、之、艦隊、上、居上、不外。從シ、  
二國間、海軍、關係、議定、坐、上、不外

625/

Defence Doc.

No. 8

海戦ニ参加シ得ル全艦船ノ考慮ニ入レラベキ  
モノナリトスルコト、素ヨリ當然テアリ。マタ若シ  
一国、斯ニ艦船、總數が他、一国、シヨリモ優  
勢ナリ於テハ、唯一、可能、結果ハ劣勢國、完  
全滅ハ毀ハシ一方優勢海軍國ハ、國防上實際  
必要度ヲ超過入地位ヲ占メ引イテハ代、列強  
ニ對スル脅威トモナリテアラワ  
運ニ可及的不可侵、不脅威、狀態、完璧ヲ  
期サニ為我方ハ攻擊武器、完全廢棄乃至  
ハ徹底的縮減ヲ主張スルモノアル。更ニ詳  
説入レハ我方ハ航空母艦、廢棄ト主力艦  
又甲級巡洋艦、徹底的縮減ヲ主張スルモノ  
ナリ。併シモシマタ主力艦廢棄ヲ支持  
スル一般的意見がアルナラバ我方ハ之ニ對シ在  
ニテ援助ヲ提供スル用意ガアル。  
性格及目的ニ於テ本質的ニ防禦的テアヒ軍  
備ニ關シテハ各國各々、情勢ト狀況ニ最  
適、方法テ自身ニ對スル施設ヲ爲スヘキコト  
ヲ計容サルベキ也、クト信スル。

尚又各部西二三ノ更一層、縮少ヲ招来ス  
1/ 以向特約効果アモ顧ラズモト思フ其故ハ  
攻撃的艦種、消失カク結果スル安全感、  
増進ハ各海軍團内ニシテ、海軍兵士甚ア更ニ  
縮減セントスル一般負担ヲムニ釀成スルが故ア

ア山

三代表者諸賢ニ日本側提議、五眼ア今一  
應想起シア貴賈フ當ニ知ハコヒリ大体次、  
通リ我方、方式、骨子ヲ披瀝シテ見度不  
1). 先づ第一也何ナシ懐柔別強上雖も超過ス  
ルコトヲ許サナリ總括的最限總額數ア  
定メテカレ。コ、總括的最限總額數ハ  
實際的目的ニ副フ過度、頗爾テアラネ  
バナラナバカリナク、軍備縮少、精神ニ逆  
ハナリ様ニ出来心ナク程度、水準ニ決定  
シテ置カケレバナラナキ。

九〇. 9

11.10

September 1900 6251

- (一) 総括的總噸數、決定上同様、ソ、艦上主兵士于攻撃的外通常常見欲下テ居る艦種、即、主力艦、航空母艦(空母サムライ場合)及甲級巡洋艦ニ對之、右、三種、艦種、各々二閑ニ于個別的ニ各國ニ許容サルベキ共通、最大限噸數及び共通、軍位数が決定サルヤアラウ。
- (二) 乙級巡洋艦及本管的防衛的ト通常見做サル以下、小型艦艇三閑ニテ、各國が各々ソ、必要ニ應ニテ、ソレ等各艦種ニ適當ト思ハシム數ヲ決定スルヲ出来ルやウスル為ニ、敵上、艦種全部ニ對入此共通、總括的最大小限噸數ヲ決定スル足リトスルアリ。
- (四) 列強ノイヅレガソリ、特殊事情、理由ニ依リ、必要ト切ハシム場合、注意ニ甲級巡洋艦、噸數ヲ減シテ、第三節ニ述ベタ防衛的艦種、何とか、噸數ヲ増加シテ差支ナリ。思フニ上述、増減ヲ實施スルハ幾多方法ガアリテアラウガ、ソレハ技術的調査、討議課題クヨリシカヘモノト信スル。

11.10

Defense Doc 6251

- (一) 總括的總頓數、決定上同時、ソ、艦種上主  
と子攻擊的下通常常見做サレテ居る艦種、  
即、主力艦、航空母艦（空母サムライ陽合）  
及甲級巡洋艦二對之右、三種、艦種、  
各々三閑に子個別的、各國ニ許容サルベ  
キ共通、最大限噸數及び共通、軍位數  
が決定サル事アラウ。
- (二) 乙級巡洋艦及本質的防衛的下通常常  
見做サレル以下、小型艦艇三閑ニテ、各國  
が各々ソノ必要ニ應ニテ、ソレ等各艦種  
ニ適當ト思ハシム噸數ヲ決定スルヲが出来  
ルヤウニスル為ニ、敵上、艦種全部ニ對入  
ル共通、總括的最大小限噸數ヲ決定スル  
ハ足リル事アリ、アラル。
- (三) 列強ノイヅレハソノ、特殊事情相、理由ニ  
依リ、必要ト切シタ場合、生食ニ甲級巡  
洋艦、噸數ヲ減シテ、第三節ニ述べタ  
防衛艦種、何レカ、噸數ヲ増加シテ  
差支ナリ。
- 思フニ上述、増減ヲ實施スルハ幾多  
方法ガアリアラウガ、ソレハ技術的  
調査、討議課題クル事ハモノト  
信スル。

1900. 11. 11

6251

21條項ハ第三節、條項ト共ニ、各列  
國ニシノ獨立ヲ擅補乙ル為調節ヲ  
ナシ得シ甚シ廣汎ナル餘地ヲ附與入  
ル子アラウ。

(五) 関係係列強誦國ハ前述各節、諸條  
項、既國ニ於テ、各國自ラ、自由意志  
ニ從シテ各自ノ海軍問題ヲ處理入  
ルヤウ矣セラレバアヒカニ日本案ハ  
以テモ例ヘバ海軍建設宣言ノ  
如キ方式、様同ア阻止スルモノナリ。  
(六) 前述ノ各節ニ於テ企劃サレタ調  
節以上、修正實施ノ必要ヲ主張  
スル國ガ若ニアツクナラバ、斯ル  
立張ハ關係係列強ニ依シテ周  
到一様説サレル子アラウ。  
根據、アヒモ、ナト立證サレタナ  
ラバ、日本ハソノ承認ヲ拒メナリテ  
アラウ。

不備以、私有線迄ニテ説明ニタ  
不可侵不脅威、牀能、確立コソ  
我が提察、其艦甚物ナリテ、關係

1906. 6. 25 /

國特殊事情クラ生ジテ純然タル防衛的少  
ニ基ツ追加調節要求ラ我方カ詫  
得シ一方不可侵不脅威狀態ヲ危殆ニ類セ  
ムルガ如キ海軍戰斗力増強如何ナル狀  
況下ニアツテモ我方ガ到底承服テナリト  
ハ首ニ詣解テキル思フ。

Open ce 1906. 6. 25 /  
要ニ其共通最高限度が一旦設定サルト  
シテモ全列強其限度迄心入建造シナケル  
ラナドトイコトラ意圖シテルハナリ。各  
國ガソ防衛上以西ニ充分應得此程  
度最小量ニマテシ。海軍ヲ制限スベキダ  
トコトハ言ク候リナリ。故ニ列強諸國間  
ニ於ル友好ト相互信賴ヲ、絕對不可缺  
モアル。スク其所ニ友好ト相互信賴無シ  
二、如何ナル方式ニ據リテハ如何ナル原理  
ニ基テ企画ガナサレヤウトモ如何ナル  
種類、軍備縮少條約、締結モ不可能ジ  
トニ就テ委員會が我方ト見解ヲ同ジ  
ル天ナリト信スル天アリ

1906. 12

若ハマノ方、日本側は業ニ依シテ企圖サセテヰル  
通り、海軍ヲ備カフ他國ヲ警戒スル能力ヲ築フ  
事が出来タナラバ、列強諸國ハ廣汎に海軍建  
造ノ必要ヲ感シテクナリテアラウ、事實上尤大ナル  
建艦計畫ヲ自説ムが如キ列強々多く無クナシテアラ  
ウ御言スハ、各國共通、最高限度、樹立ガヨリ  
本ヒ海軍ノ一般動向剥載于茲ハムラウト言フ  
危慮、根據合有二十ト信スル

Defense Doc 6251

四、口後階於テ松口、今説明申セタ日本側  
提議、基調ヲ八根本理今ハ照ラニテ終方、  
安木ニ付スル他列強行表説置キニ依ツテ行ハリ  
意、且用陳中、代表説置キ古題ニサレタニ、  
點ニ就テ歩察不当事ヲ許ニテ歛キタリト云フ、  
然者、案、説明ハナシス当事ニ依テ説明ニ易ク  
尤ト感スルカラザリアス。

No. 13

一國が同一の水域或々大洋於テ必要一ノ点海軍力ニ加シ同國之亦太平洋國家矣故ニ以更ニ同水域ニ於テ下列國、海軍力ト同等、海軍力ヲ不平洋ニ於テ保有スル事例利ヲ圖ヘラヒハキアリトス心見解ハシ上、國連合シテ海軍ト同等、海軍力保有スル權利ヲ要求スニ異ナシ所ガトナリヤウニ思ハレバズ。我々、斯ニ「西支」軍備縮小ノ開港場協定、基盤上ニ於テ沿岸推進得サセト言ハヨイテハナカト思ハレバズ。且、我々上ニハ既ニ指摘セリ。海軍武力、高度、可動性、艦體、金銭、斯ニ「西支」支持を得テ行ひマス。一國ヨリ廣大又ヨリ多數、海外領土及々又通商保持之場合、海上ニ於テ之戰力有セス沿岸防衛、備港湾防衛其他、斯ニ種種用候ハシ通商小艇等純防衛的型式艦體於他列國ヨリ大ハ海軍力ヲ要求スルト、正當ナヒ。下ハ我々トシテ容易ニ了解スル事ト云。然う石理由以テ一國の海軍力全體、優越ノ聲トスル事也。他列強、安全感ハ、為ニ皆ナヒ。何ハ何ニ場合也現在其、海軍力が勢力均等、基礎上ニ建テ一國、條件其、海外領土

No. 15

若我今之造表明言未免依存  
之國、臣下之海軍力、必更上人一層解  
承認。日本本半、日本天兩全、  
依存立言。上言者、方或可下之、更此二事。

Defence Note. 625/

1. 云通緝聞。問。十一月二十一日、周知、軍實  
不心信。心。丁丁。又。  
或以遠隔、領土、防衛、之必要。丁  
之。據、論及。其。併、我。斯。遠隔、  
地。領土、防衛。為。優越。武力。尊  
云。其。結果。于。他國。正  
其。心臟部。所。謂。廿七。八。  
一國。其。海外領土及。海上交通路。保全  
得。否。否。同國。海。制。得。半  
否。否。在。附。下。黑。八。半。入。  
海外領土。殖民地問題。他向。考察  
一國。斯。關係。海外。保持。下  
廣。世界。各地。散在。補給。基地及  
據。利。益。言。有。益。下。明。瞭。下。  
斯。如。交通。線。行。譯。三。不。海。軍  
力。移動。集。結。容。易。之。與。於。測。  
利。益。不。信。入。

190.16

October 1906. 6251

日本の天然資源は全世界の人口密度の世界、何  
國に於けるヨリも稠密である。存立の必要な物資、  
大部分は其の産業、原材料を均して海外へ輸出する  
諸國の存続には得たる所アリス。然る一部、物資  
の海外より取得しソツアルを某一部分、必需物資  
の自國領土ヨリ供給ヲ當ケ得ル諸國上日本、習  
ニハ甚シキ途度アリス。此懸隔の國內ニ豈食糧  
之資源又有、大半の自給自足の心國上比較  
不時ハ一層顯著トナリアリス。斯ル心見地ヨリ  
テ日本、如キ立場ニル國か如何ハ遙カニ有  
利ナル環境アリ他國比少勢弱ナル海軍力ヲ  
以テシテ尚且つ安全感ヲ抱コトヲ要求テし得  
也理解苦シム所アリス。

五、結論トニテ述ベシイニハ日本ハ、近海軍軍  
備縮少、廣闊ナル協定締結、希望ヲ含マリテ、  
テハシガ同時ニ不可能事ヲ達成セント主張スル天  
下モト云コトアリス。

日本代表部が当會議に提出シ案ハ過去軍  
備縮少會議、終會結果上ニ照ラシ今後、國際  
關係、現實ニ正當注意ヲ拂ヒ又問題ナ諸種  
問題ニアリ角度ヨリ慎重考慮加ヘテ上ニ  
作製スルタモアリス。而テ於此、確信人此計、日本、促進、中盛ニ

Reference Doc. 625-1

上諭諸原則，採用二序。一、當會議於于京太國  
難，洋丁二十万，每軍軍費縮減少，全盤約協定  
終結，達成之成功，得以上云月二十一日之次。

當會議於二日日本，提審本加梯擇上之上，  
道當一說人之士，實更不相今上也。諸國謀案，  
重要安日長之之極，近八千言，達于見上又上  
天可謂之了了矣。

其故日本、寛永の軍備縮少、爲一公式上  
之下行等事例通判カニテテ天人空論ニ走ヒテ  
トテナリテ本宗の包括性上融通  
性ニ當田ニシテ宗源的トテテナリテス。

日本代表部八二、提案、提案=陰謀之均之ノ開  
辟アリ全判圖ニ萬人ヲ與ヘ得ル、トヲ熱達致シ  
テシ、升級ハ今國難外、提案案ニ吉會議ニ提案  
ズ、運ヒトナリニシカ、之ノ軍備縮少ニ効果有  
リテ、本ノ全世界、切ヒニ希望ニ勵ニサレ  
シテ、當取ニ懷書トニ研究ト熱慮トニ經テ  
テナリス。

617

然六私八服後，各代表部二分天下同情，  
以至心神不寧，悵然若失，賜之藥，一月可平  
安也。此天子下之，不可不从。